

「市民自治区」構築のきっかけづくり

# 平成18年度「やまと地域の底力事業」が決定

市では、「地域のことは地域で決める」「地域の課題は地域の力で解決する」という地域自治の仕組みとなる「市民自治区」の構築に向けた施策を展開しています。この市民自治区構築のきっかけ作りとして、地域の複数の団体が協働で行う自主的な事業に対して補助金を交付する、「やまと地域の底力事業」（以下、「底力事業」）の公開審査会が6月24日に市役所で開かれ、市民ら約150人が参加しました。

底力事業は、おおむね1,500人以上の地域住民を対象に二つ以上の地域組織が協力して実施する「はじめの一步型事業」（限度額30万円、自己負担1割）と、おおむね1

万人以上の地域住民を対象に複数の団体が地域活動のほか市民自治区構築を検討する「市民自治区準備型事業」（限度額50万円、自己負担1割）の2種類に分けて支援します。今年度は、はじめの一步型事業に8件、市民自治区準備型事業に3件の応募がありました。

公開審査会では、学識経験者や市民など12人で構成する「市民自治区検討推進会議」の委員4人が審査員となり、申請者による事業内容の説明の後、事業の「発展性」や「公益性・地域貢献度」、「創造性・獨創性」、「実現性」の4項目を審査。来場者による投票も審査に加えた結果、申請があつた11事業すべてが認定されました（下表参照）。今回認定された各事業は今後、事業計画に基づいて活動が展開され、来年4月（予定）の公開報告会でその成果を発表する予定です。



事業内容を説明する提案者

また、市は市民自治区構築に向けた今後の取り組みとして、今年度中に市民自治区モデル地区を2か所指定して、市民自治区の組織や事業、地域計画などについて具体的な検討を進め、平成19年中の「(仮称)市民自治区設置条例」制定を目指しています。

問い合わせは、市役所企画政策課市民自治推進担当 ☎(260)5366、[seisaku](mailto:seisaku@city.yamato.lg.jp)。

## 平成18年度 やまと地域の底力事業

地区名(申請団体名)	事業の種類	事業名(事業概要)	支援決定額
公所地区(公所自治会、下鶴間つきみ野地区社会福祉協議会)	はじめの一步型(新規)	環境・安全・健康の三位一体推進事業(キーマンネットワーク冊子作成、健康づくり講習会ほか)	300,000円
鶴間地区(鶴間地区21自治会)		あんしんつるま 笑顔あふれるまちづくり事業(防犯パトロール、交通安全活動ほか)	300,000円
上草柳東地区(上草柳東・東原北・東原南・大和会・大東自治会)		上草柳東地区 安全・安心なまちづくり事業(防犯パトロールと危険箇所点検)	284,005円
桜森地区(桜森・相模大塚北・扇野・上草柳西自治会)		...しながら防犯パトロール事業(防犯パトロール、「防犯、防災マップ」作成)	300,000円
桜ヶ丘地区(百合ヶ丘・相鉄上和田第一・谷戸頭自治会)		久田の森の自然資源とのふれあいによる地域交流促進事業(緑地を活用した健康づくり、防犯パトロールほか)	270,000円
上福田地区(上福田14自治会)		住み続けたい街づくり事業(防犯マップと不法投棄防止活動ほか)	270,000円
上和田地区(明るい街づくりの会、上和田自治会、大和南高校、上和田小学校、上和田中学校)		上和田みんなで明るい街づくり事業(学校と連携した美化活動、防犯パトロールほか)	180,000円
高等町地区(紅葉会・高等町第二自治会)		あいさつ、声かけ運動(児童への声かけ、防犯パトロール)	71,100円
下鶴間地区(下鶴間連合自治会、明るく住みよい地域を考える会)		明るく住みよい地域を考える事業(地域課題整理と市民自治区構築に向けての検討、報告書作成)	153,900円
南林間地区(南林間自治会連合会、南林間街づくり協議会)		市民自治区準備型	みんなで育もう 家庭・地域のふれあい事業(親子のふれあい、文化交流イベント開催、市民自治区の検討)
大和地区(大和南自治連合、大和東自治会連合会)		“掘り起こせ!地域の力”(パート)(盆おどり、美化活動、防災訓練、団塊世代向け健康づくり、市民自治区の検討)	500,000円

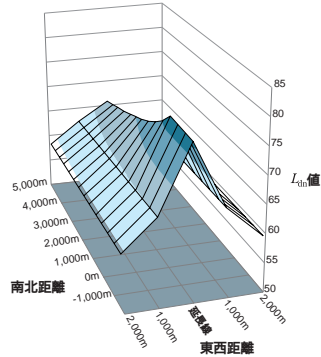
# 厚木基地の騒音シミュレーションをシステム化

市は、厚木基地の航空機騒音の状況を図示するため、「 $L_{dn}$ コンター(等音線)図」を他自治体に先駆けて使用し、これまで得られた厚木基地の航空機騒音データの分析結果などを米政府関係機関などの交渉に活用してきました。在日米軍再編の進展に伴い、厚木基地にもその影響が想定される中で、市は、これまでの分析結果を活用して、厚木基地の騒音シミュレーションをシステム化しました。

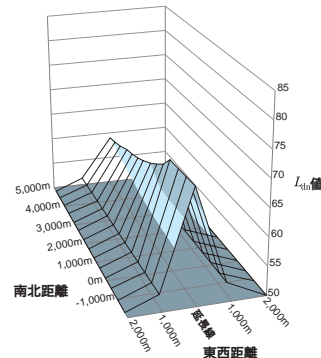
こうした活動は、今年4月1日発行の(社)日本騒音制御工学会の学会誌に掲載されました。地方自治体が独自に軍事基地の航空機騒音をシミュレーションして検証する試みは国内初となります。今回は同じシステムを使用し、在日米軍再編の最終報告<sup>1</sup>で示された空母艦載機59機が厚木基地から移駐し、海上自衛隊機17機が移駐してくる状況でかつ空母艦載機の飛行が無いと仮定してシミュレーションしました(図参照)。

大和市北部の $L_{dn}$ コンターの立体イメージ図

厚木基地現状



シミュレーション結果



問い合わせは、市役所基地対策課基地対策担当(☎260)5310、☒kichiへ。

しかし、今後の空母艦載機の運用形態は明らかにされておらず、今年6月15日の衆議院安全保障委員会で額賀福志郎防衛庁長官は、「日常的な整備機能は岩国基地に移転するが、定期整備や本格的な修理は引き続き厚木基地に残る部隊が実施することになる」との見解を示しています。

市は、今後も国に対して在日米軍再編の内容についての説明を求めていくと同時に、同システムの完成度をさらに高め、厚木基地の騒音問題解消に向けた日本政府並びに米軍との交渉に活用していきます。

1.  $L_{dn}$  米国で用いられている騒音の値を示す指標日本で採用しているWECPNLとは指標が異なるが、騒音を示すコンターはほぼ同じ傾向を示す。
2. (社)日本騒音制御工学会：騒音問題の専門家による学会。

# 市内ダイオキシン類調査結果

(平成18年度第1回)

(単位 pg-TEQ/m<sup>3</sup>)

測定場所	5月	環境基準値	備考
桜丘学習センター	0.032	0.6 (年平均値として)	焼却施設周辺

市は、平成10年度から市内のダイオキシン類濃度を把握するため、定期的に調査を実施しています。今年度は、大気1地点、河川の底質1地点の調査を実施します。

今回、5月に実施した焼却施設周辺の大気ダイオキシン類濃度は、0.032 pg TEQ/m<sup>3</sup>でした。なお、大気環境基準値は、年平均値として0.6 pg TEQ/m<sup>3</sup>以下となっており、今年度の結果がまとまってから評価することにとなります。

今後、大気については8・

11・2月の3回、河川の底質については8月に実施し、それぞれの結果がまとまり次第お知らせします。

市は、今後ダイオキシン類調査を継続し、市内の状況把握に努めます。

【参考】用語の説明

1. pg(ピコグラム)・・・1兆分の1gのこと。
2. TEQ(テューイーキュー)・・・ダイオキシン類で最も毒性の強い「2,3,7,8-四塩化ジベンゾパラジオキシン」の毒性に換算した濃度で表したもの。
3. 環境基準値・・・人の健康の保護および、生活環境保全のうえで維持されることが望ましい基準。

問い合わせは、市役所環境保全課生活環境保全担当(☎260)5106、☒khozouへ。

## ジョニーのAROUND TOWN

で市政の話題を生放送

FMやまと(77.7メガ)のお昼の番組「MIDDAY BREAK」で放送している「ジョニーのAROUND TOWN」で、市の仕事やイベントなどをレポートします。ぜひ、お聴きください(放送日・内容は、変更される場合があります)。

放送時間▶毎週水曜日午後1時40分～(10～20分程度)

放送日	内容
8月23日	災害時の避難場所、ご存じですか
8月30日	救急フェアと救急セミナーを開催
9月6日	LOVESの制度が変わります
9月13日	「やまと生涯学習ねっとわあく」制度発足から15年